

インタビュー

平成25年秋の褒章の発表があり、高浜市から湯山町在住の石原順二さんと沢渡町在住の杉浦成信さんが黄綬褒章を受章されました。

おふたりから、受章の喜びや仕事などについてお聞きしましたので、紹介します。



黄綬褒章受章者

石原 順二 氏(60歳)

主な経歴

昭和51年 6月	有限会社ヤマ嘉石原工場入社 (創嘉瓦工業株式会社の前身)
平成 6年 3月～	創嘉瓦工業株式会社社長
平成15年 4月	
～17年 3月	高浜市消防団団長
平成20年 6月～	愛知県陶器瓦工業組合副理事長
平成24年 6月～	高浜市商工会会長

✿ 受章の感想

このたびの受章は、私個人の名ではありませんが、粘土瓦製造業界がいただいたという気持ちが強いです。業界あつてこそこの受章で粘土瓦製造業、三州瓦の関係者の皆さんに感謝しています。

✿ きっかけ

家業が瓦屋であったことから、幼いころから瓦の中で遊び、生活してきたので、自然に瓦の世界に入ったという感じです。

ただ、高校・大学生時代は瓦関係ではなく、自分の好きな道に入ることかと思つた時期もありました。

✿ 苦労

昭和51年に瓦業界に入った時は、第一次オイルショック後で不景気感が漂っている状況でした。業界としてはトンネル窯を導入した釉薬瓦の製造が始まり、市内の同業者も大型窯で良質大量生産の設備更新を終えるタイミングでした。そんな中、自分の会社は投資のタイミングに乗り遅れていました。

家業を継ぐ三代目としての岐路に立ったとき、当時、まだ開発段階であることから三州瓦の製造にはなかつた、いぶし瓦のトンネル窯の導入を業界に先駆けて考えました。そして、昭和54年、大げさに言うところ三州瓦で生き残るために社運をかけ、思い切つて設備を導入しました。

今、振り返ってみると陶器瓦の大量生産に乗り遅れ、チャンスがつかみきれなかつたことが、逆に幸運だったのかと思つています。

✿ 喜び

いぶし瓦の生産は、小ロットの製造であるため難しく、瓦の中では少し高級瓦となりますが、いぶし瓦のトンネル窯を導入したことにより、良質のものをお値打ちに提供できるようになりました。

あれから34年経ち、いまだにいぶし瓦で高浜の粘土瓦の会社として世の中に貢献できているというのが、最大の喜びかなと思います。

✿ 今後

伝統のないいぶし瓦を守り、継続して次の世代に渡していくことが、三州瓦業界全体でも自分の会社でも課題だと思います。

ありがたい時代の流れとして、和風・和食・和服と「和」が見直されるとともに町並みを守るといふ気運が高まっています。町並みは屋並みであり、屋根並みだと思います。私たち瓦メーカーには三州瓦で彩られた屋根でよい町並みを形成するといふ、大事な使命があると思っています。

✿ 若い人へ

若い人たちが家を買う、住むとなるとまず家の中に関心を持ちがちですが、家というものは屋根と基礎が大事ということをお忘れしないでほしいと思います。

特に瓦屋根は、耐久性に富み、遮音性・断熱性に優れ、ランニングコストでみれば、ほかの屋根材に比べて安いと思います。

そのことを若い人たちに伝え、高浜のまちの屋根には三州瓦を選択していただき「さすが三州瓦のまちですね」と言われるまちにしたいですね。